ファーストペンギン通信

第 8 号
発行日
2024年
7月 10日
（水）
発行人
八王子実践
中学校
教頭
石川敦史

上野文化遺産探究

令和6年6月28日（金）、日暮里駅に集合し、学年縦割りの班行動で、谷中銀座、夕焼けだんだんなど、江戸の下町情緒を楽しみながら根津神社に参拝しました。

中にはアメ横や上野動物園にまで足を延ばす班もありました。最後の集合地が国立西洋美術館です。

翌日に行われた振り返り会での各班の発表を中心にこの校外学習を報告します。

日暮里繊維街

なぜ、「布の街」「繊維街」と呼ばれるのか？―大正時代初期に浅草周辺で営業していた繊維業者が市街地開発などで日暮里に移動してきたのが始まり。オリジナルキャラクターの「にっぽりん」がいる。

根津神社

祭神は須佐之男命（ｽｻﾉｵﾉﾐｺﾄ）、大山昨命（ｵｵﾔﾏｸｲﾉﾐｺﾄ）、誉田別命（ﾎﾝﾀﾞﾜｹﾉﾐｺﾄ、大国主命（ｵｵｸﾆﾇｼﾉﾐｺﾄ）、菅原道真公（ｽｶﾞﾜﾗﾐﾁｻﾞﾈ）の五柱。防災の神、農業・醸造の神、文武の神、国造りの神、学問の神と御神徳は無限です。

根津神社

根津神社の歴史は遡ること1900年前。日本書紀や古事記に登場する日本武尊（ヤマトタケル）が創祀した拝殿が根津神社の起源とされています。その後、文明年間に室町時代を代表する将軍 太田道灌（どうかん）が社殿を奉建しました。

1705年、徳川5代将軍の綱吉が兄の綱重の長男である綱豊を養子に定めます。この綱豊は、後の6代将軍徳川家宣となる人物です。綱吉は、その際に屋敷を根津神社に奉納し、神社の大造営を行います。

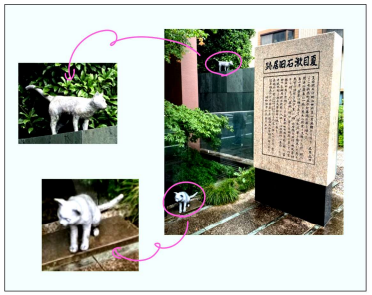
この時、現存している社殿や唐門などが建てられました。およそ300年に渡って戦火や災害を逃れたこれらの建築物は、1931年に重要文化財に指定されました。

願いのかなった人々は赤鳥居を寄贈したそうで、京都の伏見稲荷大社を思わせる景色が広がっています。

雨の中のお参りも楽しい

文豪の街散歩

夏目漱石の旧居跡を探究した班もありました。デビュー作「吾輩は猫である」にちなんでネコの置物が石碑のそばにありました。



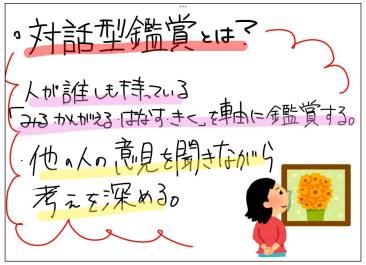
国立西洋美術館

スクール・ギャラリートークを経験しました。

10人以下のグループに分かれ、約3点を鑑賞する対話型のギャラリートークです。解説を聞くのではなく、子供たち自身が作品をじっくり見て様々な発見や解釈を話し合います。時には体を動かしたりツールを使ったりしながら、主体的に作品を鑑賞します。トレーニングを受けたボランティア・スタッフが、各グループについてサポートします。はじめて美術館に来る子供たちに楽しんでもらえるように、常設展示から様々な時代とジャンルの美術作品を選んだハイライト・ツアーです。グループごとに鑑賞する作品は異なります。

＊国立西洋美術館HPより

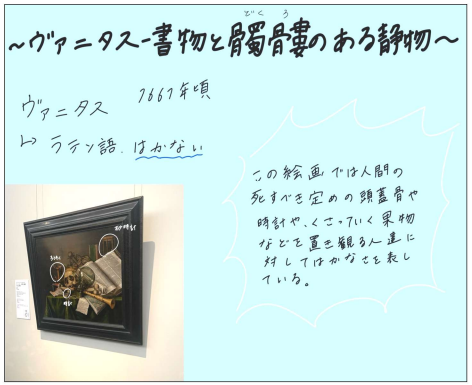
生徒たちは対話型鑑賞と呼びました。



では、どんな対話が行われたのかを生徒のプレゼンテーションから紹介しましょう。

ガイドさんとの対話

ヴァニタス「書物と髑髏（どくろ）のある静物」



「この絵は人生の『はかなさ』を表しています。この絵の中の何がそれを表現しているでしょうか。３つあります。」という問いかけがガイドさんからありました。懐中時計が目に入った生徒は、すかさず「時計」という返事を返しました。2つ目は「砂時計」です。つまり、時は人を待ってくれないのです。どんなに歳をとりたくなくてもとってしまいます。３つ目は何でしょうか。みんな食い入るように絵を眺めます。「ロウソク」です。時間がたてば、どんどん短くなっていきます。

他にも、笛や書物にある文字の意味など謎解きが進みました。

作者が絵にこめた意味を読み解いていく楽しさを教えてもらいました。

説明がすべて終わり、ガイドさんとお別れし、まだ30分ほど時間が残りました。生徒たちは「もっと見たい」という言葉を残して、展示会場に戻っていきました。

参加者の感想

〇国語の授業でやった「ちょっと立ち止まって」に書いてあった見る距離によって絵が変わるのが実感できて、すごく絵というものは面白いと思いました。また、絵の中にも物語があって興味が出ました。

〇今まで、美術館に行っても「きれいだな」と思うだけで作品をよく見ることなんかありませんでした。けれども、今回は作品を見て、何を感じるか、その作品の中で何が起こっているのか、その作品が伝えたいことなどをガイドさんと班の全員と話したので、いつもよりも絵をしっかりと見ることができました。また、美術館に行く機会があったら、今回のことを生かして作品を見たいと思います。

〇美術館に１人で行ったら、自分の感想しかもてないけど、友達やガイドさんと意見を交換しながら見られるのが楽しかった。

鑑賞したあとも、個人的にガイドさんと話して、自分の趣味の話をして、「また来たい！」と言ったら、「興味を持ってくれて嬉しい、続けてほしい。」と言ってくれてめちゃくちゃうれしかった。

〇今まで絵や彫刻を見ても、何をしているのかを考えるだけで細かいところまで見たり考えたりしなかったけど、今回観察したり、自分で色々なストーリーを作る楽しさやみんなと自分で作ったストーリーを共有する楽しさに気づくことができた。

〇作品の一つひとつに想像できるストーリーがいくつも思い浮かび、絵の解釈なんていくらでもあるんだなって思った。それを考えるのが美術館かな？

〇彫刻は特に、いろいろな方向から見られるし、気づくことがたくさんあって面白かった。絵も細かいところまで見たら、新しい発見や自分の想像力が働いて、どんどん自分の世界が広がって面白かった。アートに興味を持つことができた。

〇『貝殻の音を聞いている男の子』の彫刻は最初ふつうにみていただけだったけど、男の子の性格などが分かって作品が深く感じ取れました。

〇自分が思ったことと違う考えがあるから、それを共有できることで、絵を違う目線で見れた。

〇ガイドさんには、思ったことはすぐに言えたし、普通に楽しむことができた。対話型鑑賞を通して、いろいろな点をくわしく見るようになったと思う。

〇描かれた内容とかを深堀りすると「そういう意味だったんだな」と見方が変わった。ガイドさんの話が分かりやすく、自然に頭に入った。

終わりに

お世話になったボランティアガイドさんはこのギャラリートークをするために研修を受け、私たちの前に立ってくれました。

生徒の考える力を伸ばし、自分をしっかり表現できるような仕掛けを数多く準備してくださったのです。

蒔(ま)いていただいた種を大切に育てていきます。有難うございました。